

令和7年度総合計画施策評価シート(令和6年度実施分)

基本姿勢1 安心で魅力ある「定住のしま」 ～分野2 人を大切に、人を守るまちづくり～	
政策4 安心して子どもを産み育てられる地域づくり	本文P48～50

基本方針	少子化や家庭環境の変化に対応するため、総合的な子育て支援システムを確立し、子どもを産み育てる環境づくりに取り組みます。
------	---

1-2-4-① 安心して子どもを産み育てられる環境の充実	担当課	福祉課
------------------------------	-----	-----

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	○母子手帳発行時から保健師が寄り添い、妊婦や乳幼児の各種健診、家庭訪問、相談などの母子保健事業を実施、各種助成制度による支援、発達の気になる児の相談や療育へのつなぎ、児童虐待の未然防止を図るための育児相談などを実施し、妊娠・出産・子育て期まで切れ目のない支援を行っている。これらのワンストップ窓口として、令和2年4月に福祉課内に子育て世代包括支援センターとして、子育てセンター「ココシエン」、令和4年4月に子ども家庭総合支援拠点を設置し、令和6年4月から母子保健及び児童福祉の両機能が一体的に相談支援を行う機関として新上五島町子育てセンター(こども家庭センター)を設置し関係機関と連携を強化し支援を行っている。		
SDGsとの関係性	  	【選定理由】 少子化や家庭環境の変化に対応できる仕組みを構築し、誰でも安心して育児ができる環境づくりを推進する。	
評価(問題点とその要因)	○各種健診を通して発達の気になる児の早期発見・早期支援に努めており、ケースに応じてこども発達センターあおいとりへの療育につなげている。児童虐待についても、各関係機関と連携しながら早期発見、早期対応を心がけている。こども発達センターあおいとりでの質の高い療育や子育てセンター「ココシエン」、こども家庭総合支援での専門的な相談対応に向けて、専門職の安定的な確保が大きな課題である。		
今後の取組方針	○令和6年4月から母子保健及び児童福祉の両機能が一体的に相談支援を行う機関として、こども家庭センター機能を有する部署を設置し、支援の充実をめざしている。島内での医療機関での分娩が難しくなるため、安心して出産ができるよう妊産婦に寄り添い、伴走型相談支援の推進を図る。		

2-1. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移					達成率	
					上段: 目標値/下段: 実績値	R2	R3	R4	R5		R6
1 と ひ	出生数		人	85	85	85	85	85	90	65.6%	
					76	82	64	45	59		
	《成果指標の進捗状況》				担当課	福祉課				R2	
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										B
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	安心して子どもを産み育てられる環境の充実を図るため、令和2年4月に子育てセンター「ココシエン」を開設し、更に寄り添った子育て支援をめざして訪問活動や相談、健診等を行ってきた。町全体の人口減少の影響もあり出生数は、年々減少傾向であり、令和4年度から令和5年度は大幅に減少した。また、令和4年4月から、離島であるが故の支援として、安心出産支援補助金について、妊婦における支援に加え産婦への支援も拡充したが、令和6年度の出生数は増えたが、島内の医療機関での分娩が一旦休止となり、安心出産支援補助金について拡充を行い、経済的な支援を行った。また、不安を抱える妊婦に対して関係機関と連携を取りながら必要な支援につなぐ伴走型相談支援を行っている。										B
	人口減少対策については、子育て応援交付金なども導入されているが、子育て支援策だけで解決されるものではなく、他課とも連携しながらすすめていかなければならない。										R4
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										C
	①課題										R5
	他課と連携し、町全体で人口減少対策に取り組んでいかなければならない。島外での分娩で行う妊産婦が安心して出産できる支援体制の強化										C
②必要な取り組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										R6	
子育て世帯が安心して子どもを産み育てられる環境の充実を図るため、母子保健関係の国や県の補助金などもうまく活用していく。										C	

2-2. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
2 ひと	妊婦健康診査受診率		%	100	100	100	100	100	100	100.0%	
	《成果指標の進捗状況》					担当課	福祉課			R2	
	・達成状況 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										A
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	妊婦健康診査費用(1人14回分)の一部補助並びに上五島病院への通院距離が20km以上の妊婦を対象に交通費の助成や県外での里帰り出産の際も健診費用の助成を行うことにより、経済的負担の軽減を図り受診しやすくすることで、妊婦の健康管理に努めた。また、必要なケースにおいては、上五島病院助産師など関係機関と情報を共有し継続的にフオロしている。										A
	更に、心身ともに不安定になりやすい出産後の母子に対して、令和5年4月から上五島病院に委託し、産後ケア事業(デイケア型のみ)を実施している。令和6年度からは、産後ヨガや昼食の提供等の内容の通所型サービスを在宅助産師やヨガ講師に依頼し小集団で実施し、母親の身体的回復と心理的な安定を促進している。										R4
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										A
	<u>①課題</u>										R5
	島内の医療機関で分娩が難しくなっているため、妊婦健診や産後健診の実施について関係機関と連携を図りながら、受診体制について確認して行く必要がある。										A
	<u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										R6
今後も子育てセンター「ココシエン」を中心に関係機関と連携し、受診率100%を目指していく。令和6年度からは産後ケア事業拡充したり、令和7年度からは産後健診の助成を開始している。島外で出産した母親へサービス内容を検討しながら、周知強化していく。										A	

2-3. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
3 ひと	子ども家庭総合支援拠点	令和4年度までに子ども家庭総合支援拠点を整備する	箇所	—	0	0	1	1	1	100.0%	
	《成果指標の進捗状況》					担当課	福祉課			R2	
	・達成状況 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										D
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	令和4年4月に「子ども家庭総合支援拠点」を開設。地域の子どもや家庭の状況の継続的な把握に努め、情報の提供、相談対応、調査・指導、関係機関との連絡調整などを一体的に担っている。										D
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										R4
	<u>①課題</u>										A
	資格要件として、町の現状では保健師と社会福祉士に限られている。人事異動等で質の低下にならないよう計画的なローテーションやその他の資格要件を満たす人材の確保が課題である。										R5
	<u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										A
	人事担当とも協議し人材の確保に向けてすすめていく。また、人材育成のための研修の機会の確保、時間の確保。(なかなか現状では、研修会に参加するのも難しい)										R6
										A	

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○子育てパンフレットを作成・配布することで、各種子育て支援サービスの周知徹底を図り公立・私立保育所、子育て支援センター、児童館、幼稚園などにおいて、子育て世帯のニーズにあった保育サービスや子育て支援を実施した。</p> <p>また、放課後児童クラブや放課後子ども教室など児童の適切な遊び、生活の場を提供し、ファミリーサポートセンターにおいても、子育て支援を求める会員に支援のサービスを行った。</p> <p>町内3児童館を開館し、子ども達が安全に過ごすことができる居場所を確保した。</p>		
SDGsとの関係性	  	<p>【選定理由】 子育てサービスの充実を図り、子育て支援を実施し、子育てしやすい環境整備を推進する。</p>	
評価(問題点とその要因)	<p>○年少人口の減少による保育や幼児教育の対象児童の減少がある一方で、働き方の多様化や満3歳児以上の保育料無償化により、家庭保育から施設保育へ移行する家庭もあることから待機児童を出さない為にも正規・会計年度任用・代替保育士及び調理員の安定的な確保による保育施設の適正な量を確保し、保育の質の向上を図る。</p> <p>また、病後児保育事業については、利用状況を鑑み、令和6年度末で休止とした。</p>		
今後の取組方針	<p>○令和6年度より福祉課に設置した子育てセンター(子ども家庭センター)を中心に全ての妊産婦や子育て家庭が、保健・医療・福祉・教育等の関係機関を円滑に利用できるように、身近な場所での相談や情報提供、助言等必要な支援を行うとともに、関係機関との連絡調整、連携、協働の体制づくり等を行っていきます。</p>		

2. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
1 ひと	ファミリーサポートセンター事業会員数	依頼会員数+提供会員数	人	99	100	100	100	100	100	100.0%	
					105	103	118	128	131		
	《成果指標の進捗状況》					担当課	福祉課			R2	
	・達成状況 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										A
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	利用料金等の見直しを行い令和5年度は年間活動回数240回であったが令和6年度は613回と大幅に増加した。事業の内容が浸透し利用しやすくなってきているがそれを支える提供会員が不足しているため提供会員の確保が課題となってきた。										A
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										R4
	<u>①課題</u>										A
	町内全域で対応できるよう提供会員の更なる入会、養成が必要である。										R5
	<u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										A
定期的なセンターだよりの発行、交流会を通して登録後マッチングされていない提供会員への意欲低下を防止すると共に広報等を通して制度の周知、募集を行う。										R6	
										A	

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○仕事優先の組織や職場風土のあり方を見直すため、産前産後・育児休業等の保育所入所相談時などに啓発を行うとともに、仕事と子育てを両立している妊婦・母親に対し、厚生労働省作成のパンフレットを母子手帳発行時や乳児健診時に配布し、法制度や各種サービス内容の紹介を行った。</p> <p>また、放課後児童クラブや延長保育などの保育サービスによる両立支援やファミリーサポートセンターなどを活用し子育て世帯の負担軽減に繋げた。更に、令和2年度に病後児保育事業を新たに開始した。</p>
SDGsとの関係性	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>1 貧困をなくそう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>5 ジェンダー平等を實現しよう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> </div> </div> <p>【選定理由】 子育てしやすい環境整備を行ない、地域一体となった子育て環境を推進する。</p>
評価(問題点とその要因)	<p>○仕事と子育ての両立のために、両立に係る負担感や子育ての負担感を緩和・除去し、安心して子育てができるような様々な環境整備を進めることが重要である。子育て支援事業を周知・整備し、いざという時のための支援策や日々の預かりを支援する事業などの安定的な提供が必要である。</p>
今後の取組方針	<p>○家庭生活と職業生活のバランスがとれる多様な働き方が選択できるよう、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の普及・啓発を図り、子育て家庭のニーズに合わせた子育て支援事業を実施し、子育て家庭の不安解消に努める。</p>

2. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移					達成率	
					上段:目標値/下段:実績値	R2	R3	R4	R5		R6
1 ひと	放課後児童クラブ年間開設日数	国の基準である年間開設日250日以上を目指す	日	250	250 281	250 283	250 282	250 282	250 283	100.0%	
	《成果指標の進捗状況》					担当課	福祉課			R2	
	・達成状況 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										A
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	保護者が就労等で昼間家庭にいない小学生に放課後の適切な遊び、生活の場を与えて児童の健全育成を図った。										A
	【登録者数】					【実績】					R4
	・有川こどもクラブ 登録 18人(平均児童数:15)					開所日数 293日					A
	・浦桑たけのこクラブA 登録 34人(平均児童数:20)					開所日数 250日					R5
	・浦桑たけのこクラブB 登録 39人(平均児童数:25)					開所日数 280日					A
	・スマイル kids 登録 26人(平均児童数:17)					開所日数 310日					R6
・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										A	
①課題										R6	
放課後等に子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう、既存児童クラブを維持することが必要である。また、事業実施地区以外での実施について、必要性も含め、検討が必要である。										A	
②必要な取り組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										A	
放課後や週末等に児童が安心して生活できる居場所を確保するとともに、次代を担う児童の健全な育成を支援する。また、放課後児童クラブなどについては、地域の考え、自主性など行政主導ではなく、地域住民が主導して取り組んでいくことが必要であり、地域の動きなどを注視しながら、事業実施の必要性を判断した上で、連携・支援していく。										A	

2次評価委員会からの評価・意見等

出生数の増加に向けて各種支援体制の充実強化を図り子どもを産み育てることへの不安や負担の解決に取り組んでいるが改善が難しい。「子ども・子育て支援事業計画」を基本に、きめ細かな事業実施や環境整備に取り組み、引き続き子育て全般に関する支援に取り組むことは最重要であり今後も重点的に継続していく必要がある。